



No.	団体名	事業等の名称	事業の概要		交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的		事業の内容	全体額	申請額
1	大野北こどもロボット科学プロジェクト実行委員会	大野北こどもロボット科学プロジェクト事業	市が「相模ロボット産業特区」を推進し、相模原商工会議所においてはロボット産業推進特別チームを組織している。また、地区には3つの大学が立地しており、近隣にはJAXAがあるなど、地域資源としてロボットに対して関係が大変深い地区となっている。	JAXA相模原キャンパスの玄関口という立地から、宇宙に一番近いまちを標榜する当地区において、その実現に向けたロボット教室を通じて、地域の子どもたちに対する科学への興味や関心を伸長させ、以ってロボットの作成や修理などの活動を広げ、郷土愛を育むことを目的とする。	H29.12.1	200,000	200,000	200,000
2	大野北地区民生委員児童委員協議会	救急カード配布高齢者安心見守り強化事業	地区内の高齢化の進行及び認知症等要支援対象者の増加に伴い、現状の地域のサポートでは有事の際のサポートに不足を生じ始めている。そこで、そのサポートを補完する新たな手立てが必要となったと感じた。	有事の要支援者等へのサポートを補完するために「救急安心カード」を作成、配布して、それを携帯していただくことで、円滑な支援を行う。	H29.12.1	330,000	330,000	330,000
3	青山学院大学箱根駅伝優勝祝賀会実行委員会	青山学院大学箱根駅伝優勝祝賀会	大野北地区内にある青山学院大学相模原キャンパスが、箱根駅伝総合優勝4連覇を果たした同大陸上競技部の拠点であることに因み、地域をあげてお祝いをする気運が高まっている。	大野北地区は、学生と地域の団体や商店街との繋がりが非常に強い地域であり地域をあげて同大学の箱根駅伝優勝を祝福し、選手の健闘を称えと共に地域の絆を深める。 また、この事業を通じて、青山学院大学相模原キャンパスと地域との距離を縮め、以って同大学と地域との連携強化に資する。	H30.1.22	850,000	850,000	850,000
4	ふちのべ大学	2020はやぶさ2帰還記念 ふちのべ銀河音楽祭事業	はやぶさ2の帰還が迫ってきたところで、打ち上げ時の感動を思い起こさせ、帰還に対する地域住民への関心を高め、「宇宙に一番近い街淵野辺」を盛り上げたいと感じた。	地区内3つの大学の学生と地元の方々などが協働して、「宇宙」を題材とした事業を行い、大野北地区の方々への興味関心の伸長を図る。	H30.2.21	330,000	330,000	330,000
5	自転車事故防止キャンペーン事業実行委員会	自転車事故防止キャンペーン事業	中央区の交通事故件数は南区と共に、連続して「交通事故指定地域」になってしまう程多く、自転車と高齢者の交通事故においては、当地区の住民が関わる死亡事故や重傷者が出る事故も発生している。	交通安全母の会と地区内中学校PTAとが協力して交通安全啓発活動を行い、危機意識の醸成と交通安全意識の高揚を図る。	H30.2.21	350,000	350,000	350,000
6	中央区自治連自転車対策会議 (※8地区合同事業)	自転車事故撲滅のための交通安全啓発事業	中央区は、数年に渡って自転車事故多発地域及び高齢者事故多発地域に指定されるなど、交通事故が非常に多い地域である。今年においても昨年を上回るペースで事故が発生しており、早急な対策が必要な状況である。各地区や各団体において、1件でも多く事故を減らすために取り組んでいるところではあるが、活動の範囲は地区内に限定され、広域的な活動はあまりされてこなかった。そこで、この自転車事故対策問題を中央区全体の課題と捉え、広域的な活動を開始することとなった。	中央区全体で自転車利用者に対して標柱幕による交通安全啓発活動に取り組むことにより、自転車事故を撲滅する。	H30.1.29	2,387,000	2,387,000	2,387,000
						うち大野北地区分	うち大野北地区分	うち大野北地区分
						31,000	31,000	31,000
						2,091,000	2,091,000	2,091,000